



COC事業全体を通しての活動

COC HEADQUARTER

〈事業担当代表者〉 大学院 理工学研究科 特任教授：古川修

〈事業推進〉	特任教授：古瀬利博	根本真耶
	課長：羽賀丈雄	コーディネーター：稲熊律夫
	課長補佐：鈴木健一	コーディネーター：坂本千晴
	高島美由紀	コーディネーター：杉野博之

活動概要

2013年度は10月から活動を開始し、事業全体フレームづくり、各プロジェクトの立ち上げに注力した半年間であった。

事業全体のフレームづくりとして、活動の拠点となる「地域共創センター」のコンセプトと位置づけを明確にし、その事業内容を対外的に発信すべく、事業説明用のパンフレットの作成およびWebサイトの構築を進めた。

また、1月25日(土) 本学のCOC事業のキックオフイベントとして、一般・学生合わせて228名を集め、「木の魅

力を伝える」と題した東京ベイエリア産学官連携シンポジウムを開催した。江東区の代表的な地場産業である木材流通加工業者と連携し、地域の住環境改善を目指すプロジェクトのテーマを取り上げ、東京大学名誉教授内田祥哉氏、建築家今里隆氏による講演とパネルディスカッションを行った。

冒頭、村上学長からCOC事業への取り組みに対するメッセージを伝えることができた。



事業説明用パンフレット

Webサイト



【左上】シンポジウムポスター 【右上】キックオフシンポジウムにて事業説明を行う村上学長 【下】パネルディスカッション

プロジェクト概要

本学のCOC事業に取り組むプロジェクトは7プロジェクトあり、それぞれ「まちづくり」あるいは「ものづくり」に関連したプロジェクトである。

「まちづくり」のプロジェクトは、各地域を拠点に、市民、地域団体、NPOなどさまざまな地域の担い手と学生がともに地域の課題に取り組むべく活動を行っている。高齢化の進むUR団地の空き店舗を大学サテライトラボとしてオープンさせ、大学院の演習や地域の講座などを拠点づくりと活用を実施する「まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト」、水辺の利用、歴史的資産となる木造建築のリノベーションを自治体、商店会、まちづくり協議会など地域の関係者と学生がともに学ぶ「芝浦アーバンデザイン・スクールプロジェクト」、大学キャンパス付近に多く存在する運河の利活用をテーマに市民とともに現場で考える「内部河川・運河の活用とコミュニティ強化プロジェクト」、地場産業である木材事業者の活性化を「住まい」という場と「住み手」の立場をつなぎながら考える「木材流通加工業者との連携による居住環境の改善プロジェクト」の4つがある。

一方「ものづくり」のプロジェクトは、地域の企業やコミュニティの課題に対して、ものづくりを通して課題解決を図る試みを展開している。

具体的なプロジェクトとしては、コミュニティの安心・安全を促進する見守り支援や健康支援に対してロボット技術を活用してソリューションを提供する「ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築プロジェクト」、製造業の空洞化に対するあらたな試みとして、設計・製造の一連のプロセスに技術革新を取り込むことで、ものづくりの国内回帰の実現にチャレンジする「材料・製造工程革新によるものづくりの国内回帰プロジェクト」、そして高齢化が進む地域において高齢者でも安心して利用できる移動手段を開発する「パーソナルモビリティ（低炭素交通）プロジェクト」の3つのプロジェクトがある。

地域との連携

地域との連携は、主に、江東区・港区・さいたま市・埼玉県を中心に展開した。

江東区・港区の地域の中から学生の演習課題を設定し、学生が検討した提案に対し、自治体や地域の方々と交えて成果報告会を開催し、学生の作品に対するご講評をいただくなど、自治体や地域の期待を直接学生に

フィードバックする機会を持つことができた。

また、ベイエリアに拠点を置く法人や住民、NPO、任意団体、学生グループと、ミーティングの場の設置、公開講座の運営、実証実験の実施など、課題共有、事例学習、協働する機会を増やす活動を積極的に行ってきた。

さいたま市では、市が主催する研究会に参加し、市が直面する課題の解決に取り組む活動を展開した。この活動を通して、現場に即した実学を学生が学ぶ機会を持つことができている。

さいたま市とは、市が主催するイベントやフォーラムを通じて、学生および教員の研究につながるテーマについて、積極的な関与を展開している。具体的に地元企業と連携した研究の実績も得られた。

埼玉県との連携においては、県主催のマッチングイベントに参加し研究紹介を行い、産学連携の訴求を行うことができた。また、埼玉県上尾市にはサテライトラボをオープンし、大学院授業の課題として地域活性化を研究する拠点を開設した。

他大学との交流

本学同様平成25年度からCOC事業に取り組んでいる大学との情報交換の場を設けるとともに、関連する事業紹介シンポジウムに参加した。

鳥取大学、島根大学、金沢工業大学とは個別ミーティングの形で、各プロジェクトの事業内容、地域との連携、教育カリキュラム等について、事例を交え取組状況を共有することができた。今後の活動の参考となる点が大いにあり、次年度さっそく盛り込めそうな活動もあった。

大阪市立大学・大阪府立大学へは、シンポジウムに参加した際に、担当する教員と交流し、成果指標についての考え方を聞くことができた。

また、大学間連携を推進している金沢大学が都内で開催したシンポジウムでは、文科省の大学教育に関する方向性を確認することができた。

今後もできるだけ他大学との交流の場を設けるようにしていく。